

伝統的構法建築物の耐震性能が確認されました！

9 月 18, 19 日 Eディフェンスで実大振動台実験が行われました。平成 10 年にも行われ、(既報 175 号)今回が 2 回目でしたが、結果は前回と同様に部分損傷のみで倒壊は起きませんでした。

今回は 13.63×9.08 軒高 7.76m の部分 2 階建て住宅で、伝統的木造住宅石場立てで日本瓦、土塗り壁、通し柱が 210 角、180 角、150 角で管柱 120 角、梁桁材は 120 盤で 2 棟。内 1 棟には柱脚部に地長押(地束貫?) を取付けました。

これに、「希な地震動」「極めて希な地震動」「巨大地震」の 3 通りの加振を、短辺方向・長辺方向・3 方向で繰返し行いました。

結果は 2 棟とも目立った損傷はなく、一部土壁のひび割れ、柱脚の折れ曲がりが見られましたが、倒壊等は起きず高い復元力を示し、伝統的構法建築物の耐震性能が確認できました。平成 21 年に行われた長期優良住宅 3 階建てが完全倒壊し、建築基準法をクリアーしただけの構造上弱いはずの住宅は柱脚がはずれ、かなりの損傷はあったものの完全倒壊は免れた(既報 160 号)事等との比較解析に期待したいものです。

今後はこれらのデータを基に伝統的構法の設計法を作成し、行政担当者への普及を図るそうです。

木造公共建築物の支援拡充を予算要求！

平成 22 年「公共建築物木材利用促進法」が施工されてから、全国の自治体の 36% が「公共建築物の木材利用目標を盛り込んだ方針」の策定を行っております。

林野庁では 13 年度予算の概算要求に「森林・林業再生基盤づくり交付金」として 64.6 億円を計上し、このうち 58 億円を公共建築物整備支援に配分するようです。具体的には、木質内装化で 2 分の 1 (従来と同じ)、木造化で 3 分の 2 (従来 1/2) と上限の引き上げも検討しています。これにより公共建築物の木造率を平成 15 年度までに 24% の向上させることを目指しています。

【情報】

「第 47 回全国木材産業振興大会」

宮崎市で上記大会が開催され、日置地区木連会長の川崎氏が協同組合事業功績者表彰を受けられます。おめでとうございます。

東大名誉教授有馬孝禮先生の基調講演の後、パネルディスカッションが行われます。

日時 10 月 17 日(水) 13:15~17:50

場所 宮崎観光ホテル

【定休日】

10 月は 6, 7, 13, 14, 20, 21, 27, 28 日となります

11 月は 3, 4, 10, 11, 18, 23, 24, 25 日となります

宜しくお願いします。



(伝統的構法木造住宅の耐震試験)